

研究開発テーマ名

CCC の機能要件と社会受容可能性の明確化

2022年度までの進捗状況

1. 概要

本研究開発テーマは、プロジェクトの「子育て多様化の背景調査と実践による理論化」を担っています。この研究開発テーマの達成により、「従来の子育てに関する制度を補完する CCC に必要となる機能が明確化されること」となり、プロジェクトの目指す「社会全体で多様な人々が柔軟かつ責任をもって子育てに関わる『わたしたちの子育て』の実現」、ムーンショット目標9で目指す「個人間・集団のコミュニケーション等におけるこころのサポート」に貢献します。この達成に向けては、「子育てを社会全体で行うための具体的な方法や方針を明らかにする」ことが課題となっており、これらの解決を目標とし、2つの具体的課題に取り組みます。

課題1: CCC 機能要件の明確化と潜在的参画者判定システム
 子育てに関わる多様な人へのインタビューや既存の社会制度に関する文献調査を通して、子育てに第三者が関わることの長所・短所について複数の専門領域から検討します。

課題2: CCC に基づく家族関係のテスト

本研究グループ関係者で実際に擬似的 CCC を運用し、ロールプレイとテストの反復によって具体的な状況で生じる課題や CCC の利点について仮説を整理します。

2. 2022年度までの成果

課題1:

A インタビューによる実態調査 (図1)

子育て中の親 18 名、第三者との関わりのある 10 歳から 18 歳の児童 20 名、子どもに関わる第三者 13 名のインタビュ

ーからメリットデメリットが見出されました。(図1)

B: 有識者へのヒアリングとアドバイザリーボードの設置
 家族社会学等の多分野の有識者 19 名にヒアリングを行い、アドバイザリーボードの設置を行い、CCC の既存制度との整合性や社会的受容要件についての意見を収集しました。

C: 代替養育等に関連する文献研究

約 50 点の文献調査とヒアリングから、CCC において、実親との「競合」の抑止や、養育者同士の相互的關係の構築などが重要であることがわかりました。

D: 代替養育等に関連する事例研究

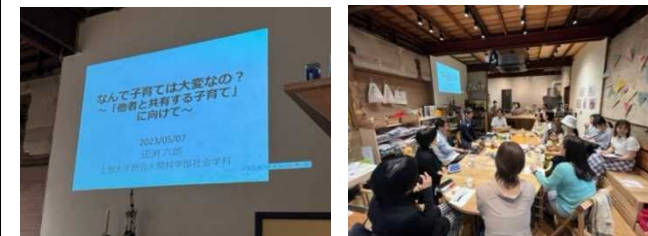
事例研究の結果、養育に関わる大人と子どもとのマッチングに際して、双方の特性を考慮するしくみの構築が必要であることがわかりました。

回答者	メリット	デメリット
親	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに関する情報の獲得 ネットワークの形成 子育てから離れる機会の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 親と第三者の關係の悪化および信頼感の不足 子育て方針の違いによる悪影響
子ども	<ul style="list-style-type: none"> 学びや体験の獲得 情緒的な交流の獲得 肯定的な言葉かけの獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ネガティブな態度や発言の影響 心理的に遠い距離感 思考や生活習慣のギャップ
第三者	<ul style="list-style-type: none"> 学びの獲得 健康状態の向上 年下の存在との關係性の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの対応の困難さ プライベートへの侵食 プレッシャーの自覚

(図1. 子育てに第三者が関与することのメリット・デメリットの一覧)

課題2: CCC に基づく家族関係のテスト

CCC の事例として、母親が 1 歳未満の幼児の子育てをしている状況を対象に、当該母親に対して代替親族が数名いる状況で CCC に基づく家族關係の構築を試みた。これにより、状況の把握、解釈、介入の決定、実施という CCC の具体的なイメージを固めました。また、研究期間のあいだ家族と代替親族の關係について、定期的にインタビューなどを行いました。



3. 今後の展開

課題1: CCC 機能要件の明確化と潜在的参画者判定システム

A: インタビューによる実態調査

子育て支援を提供する組織の関係者や、子育てにかかわっていない独身者・高齢者へのインタビューにも取り組み、CCC に必要な機能の要件をより明確にします。

B: 有識者からなるアドバイザリーボードとの意見交換

インタビューにより得られた情報をもとに構想する CCC のイメージについて、意見をいただきます。

C: 代替養育等に関連する文献研究

関連する内外の他制度に関する文献の検討とヒアリングを進め、CCC に必要な機能要件を更に詳細に類型化します。

D: 代替養育等に関連する事例研究

他の制度の事例研究を進め、CCC の機能要件と制度運用の問題点をより明確にします。

課題2: CCC に基づく家族関係のテスト

課題推進者が尾山台地区で運営する「おやまちリビングラボ」のコミュニティ内の 2~3 組の親子と第三者による検証を行い、具体的な状況で生じる課題や CCC の利点について整理します。また、より広い参加者を募り、CCC が実現するモデルシナリオを形成するワークショップによるモデルシナリオ形成を行います。

(齋藤慈子・田淵六郎・上智大学
 坂倉杏介・東京都市大学)

研究開発テーマ名

研究開発項目2 : Child Care Commons 運用システムの設計

2022年度までの進捗状況

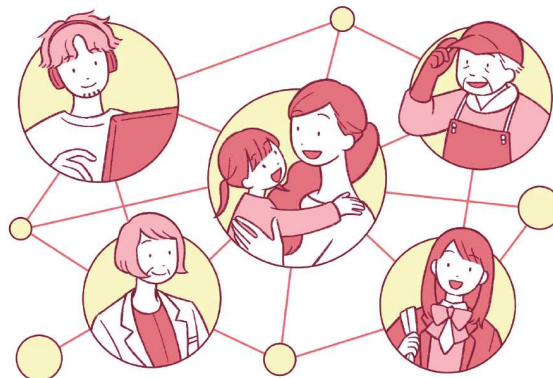
1. 概要

本研究開発項目では、「Child Care Commons(CCC)」の実現に必要なシステムの要件を構築することをめざします。この目標を達成するために、システムによって実現されるべき機能群を明らかにするとともに、その機能群を実装できる技術の要件を検討します(課題3)。また、次年度以降、実現されるシステムの評価方法についても検討していきます(課題4)。

近年、スポーツや街づくりといったコミュニティ形成に関する社会課題を、デジタル技術、特にブロックチェーン技術やそれに類する技術によって解決する試みがなされています。これらの中では、スポーツチームの応援や自治体への参画の方法として、その「証」(電子的なトークン)を発行し、コミュニティへの関わり方のバリエーションを増やしています。このような関わり方の「証」は、所有者に、ある種の帰属意識を生じさせ、一定の割合の人が、その組織に主体的に関わる「仲間」として、コミュニティに参画するようになっています。

CCC では、このような関わり方の「証」を子育ての場にも導入し、子育ての環境に新たな選択肢をもたらします。子育てに、親子以外の多様な人(以降、参画者)も、その人なりのやり方で柔軟かつ責任を持って関わる可能性が生まれます。このような子育ての形の多様化は、様々な負担で苦しんでいる親子への助けとなるだけでなく、どの子どもにも、多様な大人との関わりを自ら選択し成長する機会を提供すると考えられます。参画者も、子どもが成長する時間に寄り添った「証」が得られ、子育てへの関与感・貢献感といった充足を得られるでしょう。CCCの実現に向けて、本項目では、既存制度との関係を考慮しつつ、CCCのシステムで実現される機能群や技術要件を検討します。

スポーツや街づくりのコミュニティ形成で使われている電子的な関わり方の「証」を子育ての場にも導入



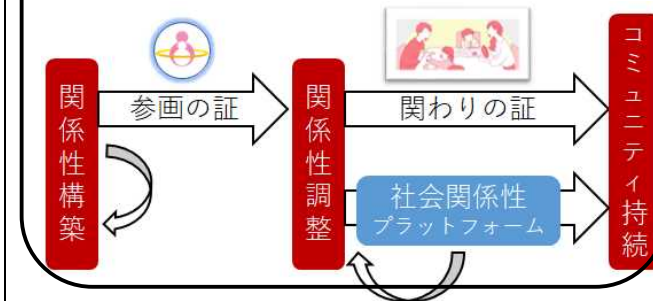
2. 2022年度までの成果

これまで述べたようなCCCの機能を実現するシステムは、子育てへの関わり方の「証」を電子的に保証するだけではなく、親子と参画者のコミュニケーションのデータを各家族が望む形でプライバシーを保持しつつ共有し、そこで生じている関係性を可視化し、親子と参画者が自らの意思で子育てのコミュニティを更新していけることが望ましいでしょう。現在までに、親子と参画者の間でどのような行為が行われ、何が実現されるのか、その概念モデルと、それを実現する技術要件を明らかにしました。このモデルでは、大まかに、以下のような形で、自律的な合意形成に基づいて、親子と参画者による、子育て環境の構築が進められることが期待されます。

1) 親子と参画者のやり取りは「関係性構築」から始まります。合意形成がなされた場合には、2) その親子の子育てのコミュニティに対する参画の「証」(=メンバーシップトークン)を発行します。続いて、3) 参画者の役割・

関わり方を調整します。4) その際に、親子と参画者の関わり方の情報、例えば、共同活動の写真などを、改ざんされない関わり方の「証」として記録します。5) 同時に、親子と参画者のやり取りに関するデータを、NTTが提唱する「社会関係性プラットフォーム」に入力、操作して、親子と参画者の関係性を可視化します。4)と5)のプロセスを通じて、親子と参画者は、コミュニティが持続されるようにします。6)その後、関係性終了時は、親子と参加者の合意の下、「メンバーシップトークン」が失効します。

ブロックチェーン技術などを用いることで、メンバーシップトークンのやりとりや、親子と参画者の関わり情報は、合意の存在やデータの真正性が保証される一方向的な関わり方の成立や破棄、関係性の改ざんを防ぐ



3. 今後の展開

今後、親子と参画者のやり取りの記録方法や、データのプライバシーやセキュリティなど、技術面での検討とともに、情報共有のルールといった制度設計や倫理面での検証も進めていきます。また、システム評価の一つの方法として、参画者の子育てに関わる中での考え方や態度の変化を、認知科学や脳科学の視点からも検証します。

(渡邊淳司・NTTコミュニケーション科学基礎研究所
細田千尋・東北大学)

研究開発テーマ名

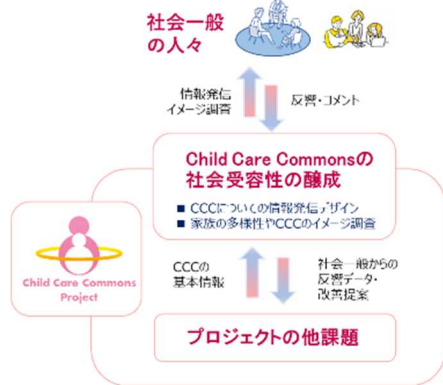
Child Care Commons の社会受容性の醸成

2022年度までの進捗状況

1. 概要

本研究課題では、に社会全体で子育て環境の選択肢を広げていくことをめざす「Child Care Commons (CCC)」のメリット理解や多様な子育ての環境をそれぞれの親子が選択することを許す雰囲気を、社会一般で広く醸成することをめざします。この最終目標に向かって、子育て環境の多様性に対して社会一般の方々がもつ様々な考え方を調査し、その結果にもとづいて CCC が社会一般に受け入れられるようなシステムの修正提案・要件構築の検討を行います。

その中では、アンケートなどでのイメージ・意識調査にとどまらず、私たちの考えを適切に伝えるメディアやワークショップのデザインも行います。これらのメディアデザインを通して、情報発信に対する社会一般のフィードバックが円滑かつ適切にプロジェクトに反映されるしくみを構築します。この取り組みによって、CCC がもたらすと期待される子育て環境の多様化が、専門家だけではなく、様々な人により受け入れやすい形にアップデートされていくことが期待されます。



2. 2022年度までの成果

これまでに、CCC の考え方を整理するプロジェクト内ミーティングを開催し、その内容のグラフィックレコーディングなどを通して、CCC の説明を行う文・図のセットを作成しました。さらに、それらの説明用素材から感じるイメージとあわせて、親権分有を含む既存制度と ICT を利用した新しい家族の形についての非専門家に向けた意識・イメージ調査を行いました。この調査では、現時点での私たちの考える CCC のしくみに対する社会一般の受容度を知ることとともに、どのような言葉や図がネガティブなイメージや意識を持たれやすいかを明らかにすることを目的としていました。

この調査の結果、多様な子育ての形をそれぞれの親子が自律的に選択することの重要性や、CCC のコンセプトについて、一定程度の賛同が得られそうであることがわかりました。その一方で、それぞれの家族が自身の意思で家族の形を選択できることの実現性やプライバシー保護への懸念を感じている人も多そうであることも明らかになってきました。

さらに、アンケートの結果も踏まえながら、これまでに実際に行われている親権分有の例や現時点での私たちの考え方をわかりやすくご紹介するリーフレットを作成しました。



(2023年3月版リーフレットより抜粋)

作成したリーフレットについては、非専門家や実際に子育てに関わっている方々が参加するワークショップでの評価やコメントを収集し、それらに基づく改訂を繰り返しています。



(2023年3月に実施したワークショップの様子)

3. 今後の展開

今後は、リーフレットをベースとした CCC プロジェクトについての Web サイトの公開や対面式のワークショップを通して、さらに幅広い反響を集め、CCC のコンセプトが社会一般に受け入れられやすいものになるような改善提案や、CCC を支えるシステムの構築要件のブラッシュアップに貢献し、より多くの人が子育ての様々な形にかかわってみたいと感じるような社会の実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。

(丸谷和史・NTT コミュニケーション科学基礎研究所)